

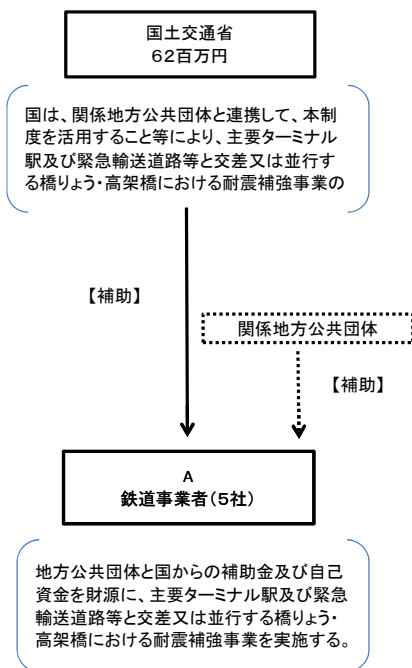
平成25年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	鉄道施設安全対策事業(鉄道施設の耐震対策)		担当部局庁	鉄道局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	H23~		担当課室	施設課		施設課長 江口 秀二		
会計区分	一般会計		政策・施策名	5 安全で安心できる交通の確保、治安・生活安全の確保・強化 14 公共交通の安全確保・鉄道の安全性向上、 ハイジャック、航空機テロ防止を推進する				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	社会資本整備重点計画・防災基本計画				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度以内)	中央防災会議における防災基本計画(H17)の提言に基づき、今後発生が予測される大規模地震に備え、主要なターミナル駅について耐震補強の緊急的実施を図る。 また、首都直下地震及び南海トラフ地震に備え、これらの地震において強い揺れが想定される地域において列車の安全運行を図るとともに、避難活動や緊急支援物資の輸送、復旧活動等を支える緊急輸送道路等への影響を防ぐため、緊急輸送道路等と交差又は並行する橋りょう・高架橋の耐震対策の更なる進捗を図る。							
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	乗降客数が1日1万人以上の高架駅であって、かつ、折り返し運転が可能な駅又は複数路線が接続する駅の耐震補強事業を対象に補助対象工事費の1/3(ただし地方公共団体の補助額以内)を予算の範囲内において補助する。 また、首都直下地震及び南海トラフ地震において強い揺れが想定される地域における、緊急輸送道路等と交差又は並行する鉄道の橋りょう・高架橋の耐震補強事業を対象に補助対象工事費の1/3(ただし地方公共団体の補助額以内)を予算の範囲内において補助する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算の 状況	当初予算		812	391	1,836	2,500	
		補正予算		-	1,360			
		繰越し等		-51	-1,618	1,669		
	計			761	133	3,505	2,500	
	執行額			276	62			
執行率(%)			36	46				
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (27年度)
	主要なターミナル駅の耐震化率		成果実績	%	88%	89%	調査中	100%
			達成度		-	-	-	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	乗降客数が1日1万人以上の高架駅であって、かつ、折り返し運転が可能な駅又は複数路線が接続する駅における耐震補強実施駅数		活動実績 (当初見込み)	駅	18	10	8	-
					鉄道施設総合安全対策 事業による実績	(13)	(13)	(20)
単位当たり コスト	8百万円(執行額/駅数)		算出根拠	執行額:62百万円 駅数:8駅				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	耐震補強工事費(柱補強等)		1,836	2,500	要求額のうち「新しい日本のための優先課題推進枠」2,500 平成26年度概算要求では、阪神・淡路大震災及び東日本大震災を踏まえ、また、防災・減災対策の強化が喫緊の課題となっている首都直下地震・南海トラフ地震等に備えて、より多くの鉄道利用者の安全確保や、一時避難場所や緊急輸送道路の確保等の公共的機能も考慮し、主要駅や高架橋等の耐震対策の一層の推進に資する制度に見直したため。			
	計		1,836	2,500				

事業所管部局による点検														
	項目		評価	評価に関する説明										
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	<p>大規模地震が発生した場合、不特定多数の帰宅困難者や負傷者の発生が予想されている。発災時において、主要ターミナル駅は帰宅困難者の収容や負傷者の応急対応・情報発信拠点となる可能性があり、緊急輸送道路等は避難活動及び復旧活動等を支えるため、主要ターミナル駅及び緊急輸送道路等と交差又は並行する構りより、高架橋の耐震対策を緊急的に実施する必要があるため、優先度が高く、国民のニーズに応えるものとなっている。</p> <p>また、耐震対策には多額の費用を要するため、鉄道事業者のみで早期に耐震補強を進めることは困難であるため、国が費用の一部を補助することにより耐震補強の一層の進捗を図る必要がある。</p> <p>なお、主要ターミナル駅については、平成27年度末に耐震化率概ね100%を目標に掲げている。</p>										
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○											
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○											
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	<p>耐震補強工事に係る費用を、国・地方・事業者が1/3の割合で負担しており、負担割合や費目・使途は妥当である。</p> <p>また、耐震補強工事の実施にあたっては、複数の工法について費用や効果を比較検討し、最も効率的な工法を選択することにより、コストの縮減に努めており、単位当たりのコストの水準は適当である。</p> <p>不用については、「高架下利用者等との調整がつかなかった」等の理由を把握し、不用額の縮減に努めている。</p>										
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○											
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○											
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—											
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○											
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	<p>多額の費用を要する耐震補強に係る費用の一部を国が補助することにより、耐震補強の推進に寄与することから効果的な手段である。</p> <p>なお、また、耐震補強工事の実施にあたっては、複数の工法について費用や効果を比較検討し、最も効率的な工法を選択することにより、コストの縮減に努めている。</p>										
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○											
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○											
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業番号</th> <th>類似事業名</th> <th>所管府省・部局名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		事業番号	類似事業名	所管府省・部局名						
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名											
点検結果	<p>本事業は国庫補助事業であることから、事業着手から事業完了までの間において、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」及び、「鉄道軌道輸送対策事業費補助交付要綱」等に基づき、国土交通省職員による現場審査・書類審査を実施することにより、国庫補助金の支出先・使途等については、その適否を含めて明確に把握している。</p>													
外部有識者の所見														
行政事業レビュー推進チームの所見														
事業内容の改善	<p>耐震対策は緊要性の高い事業であることから、不用が生じている理由を分析した上で、執行率の向上に努めるべき。</p>													
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況														
執行等改善	<p>チーム所見を踏まえ、鉄道事業者等関係者と連携し、事業箇所の把握・精査に努め、適切に事業を実施することで耐震対策の一層の推進に努めていく。</p>													
備考														
関連する過去のレビューシートの事業番号														
	平成22年	—	平成23年	1028	平成24年	0280								

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)



A.東京急行電鉄(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
工事費	耐震補強工事費(柱補強等)	28			
計		28	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京急行電鉄株	耐震補強工事費(柱補強等)	28	—	—
2	阪神電鉄株	耐震補強工事費(柱補強等)	17	—	—
3	京成電鉄株	耐震補強工事費(柱補強等)	11	—	—
4	東京地下鉄(株)	耐震補強工事費(柱補強等)	4	—	—
5	近畿日本鉄道(株)	耐震補強工事費(柱補強等)	2	—	—
6				—	—
7				—	—
8					
9					
10					